

笹舟が旅する家

都市の中で暗渠化された水路を開放する。

都市の中にある数少ない自然の存在である水路。人は自然を求めるが水路は邪魔者扱いである。

半世紀前、この地域において重要であった農業に利用されていた水路。子供たちにとっての遊び場でもあった。

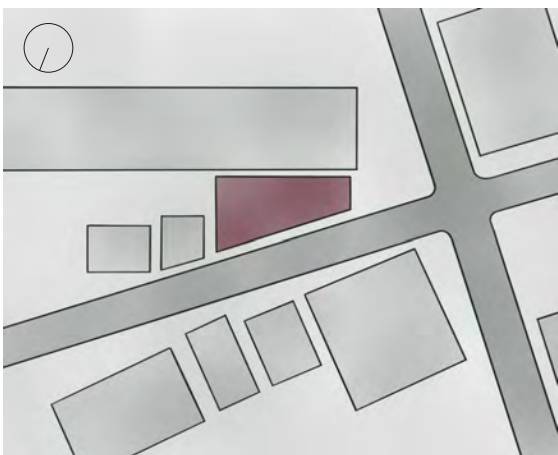
そんな水路はいつしか隠したい存在となった。

水田の無い今、水路の新しい利用法として、住宅に水路を引く。水路は都市の中で失われつつある生物や植物のすみかとなり、さらにそこに住む家族の居場所となる。

大きな溝のはざまで笹舟は旅に出た。



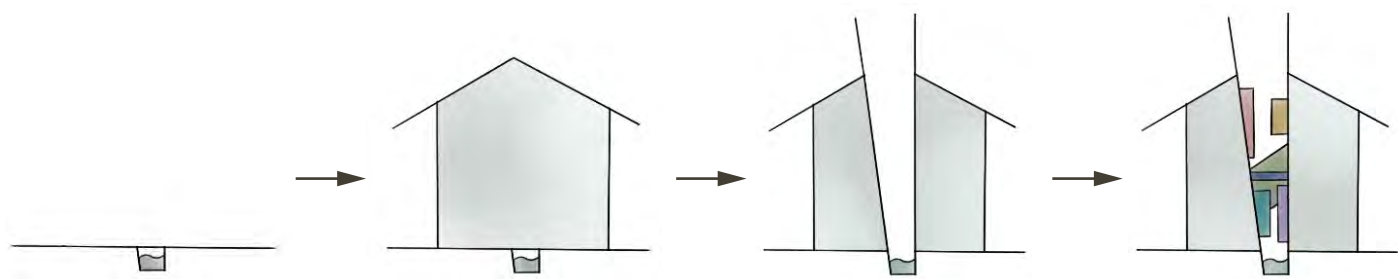
1 対象敷地



対象敷地は福岡県福岡市の大橋に位置する。この近辺はかつて、農業地帯であったため暗渠化された水路が見受けられる。農業のための用水路は子供たちの遊び場であり、多くの生き物や植物のすみかでもあった。

3 コンセプト

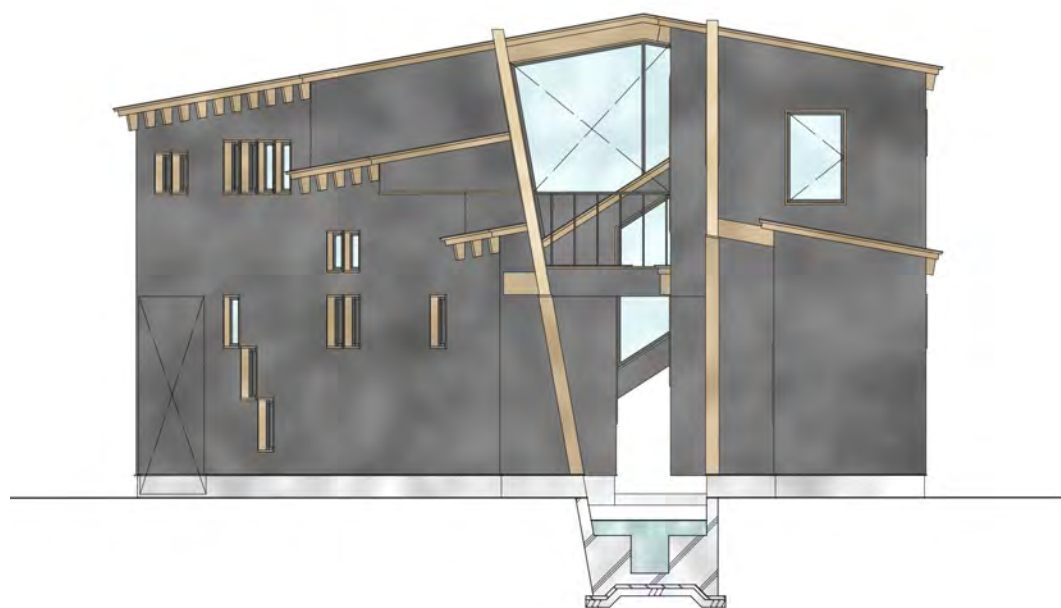
暗渠化された水路を住宅と一体化して解放することで、水路を中心に生活が溢れ出し、時間経過とともに植物や生物の居場所となっていく。



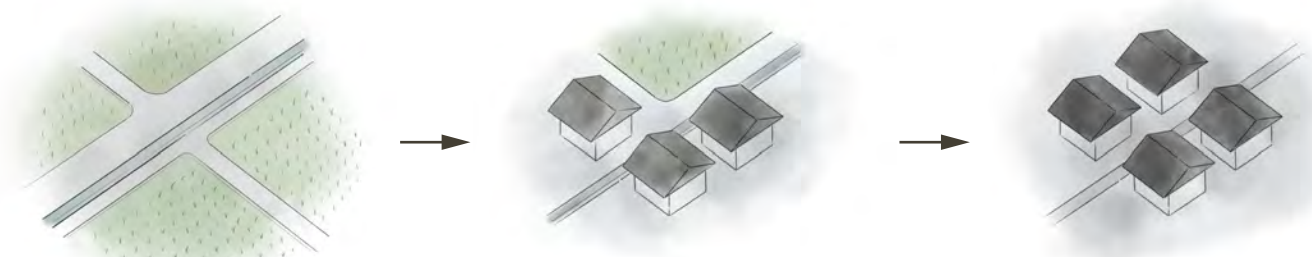
暗渠化された水路 水路の上に住宅が建つ 水路を住宅と一体化 水路を中心に生活が溢れ出す

立面図 S=1:100

構造は910モジュールの在来工法と大きな溝のためのCLTパネルを併用する。CLTは24mの住宅を補強するとともに、外部では植物が這う余地となり、内部では現しで用いることができる。北側のパネルのみ光を取り入れるため傾ける。



2 水路について



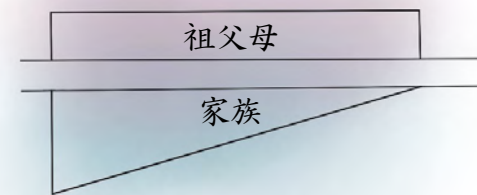
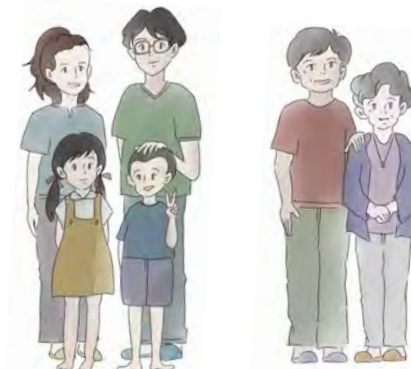
かつては田んぼの為の水路があった

田んぼは住宅に変わり都市化が進んだ

水路は暗渠化され姿を消した

4 家族構成

この住宅は4人家族と祖父母の2世帯が住んでおり、水路を介してお互いの住宅機能が侵食しあい、程よい関係性を構築する。同居では近すぎるが、2世帯住宅では遠すぎる、その中間の距離感が心地よいのではないかと考えた。水路を1階では物理的、2階では心理的な境界として利用する。

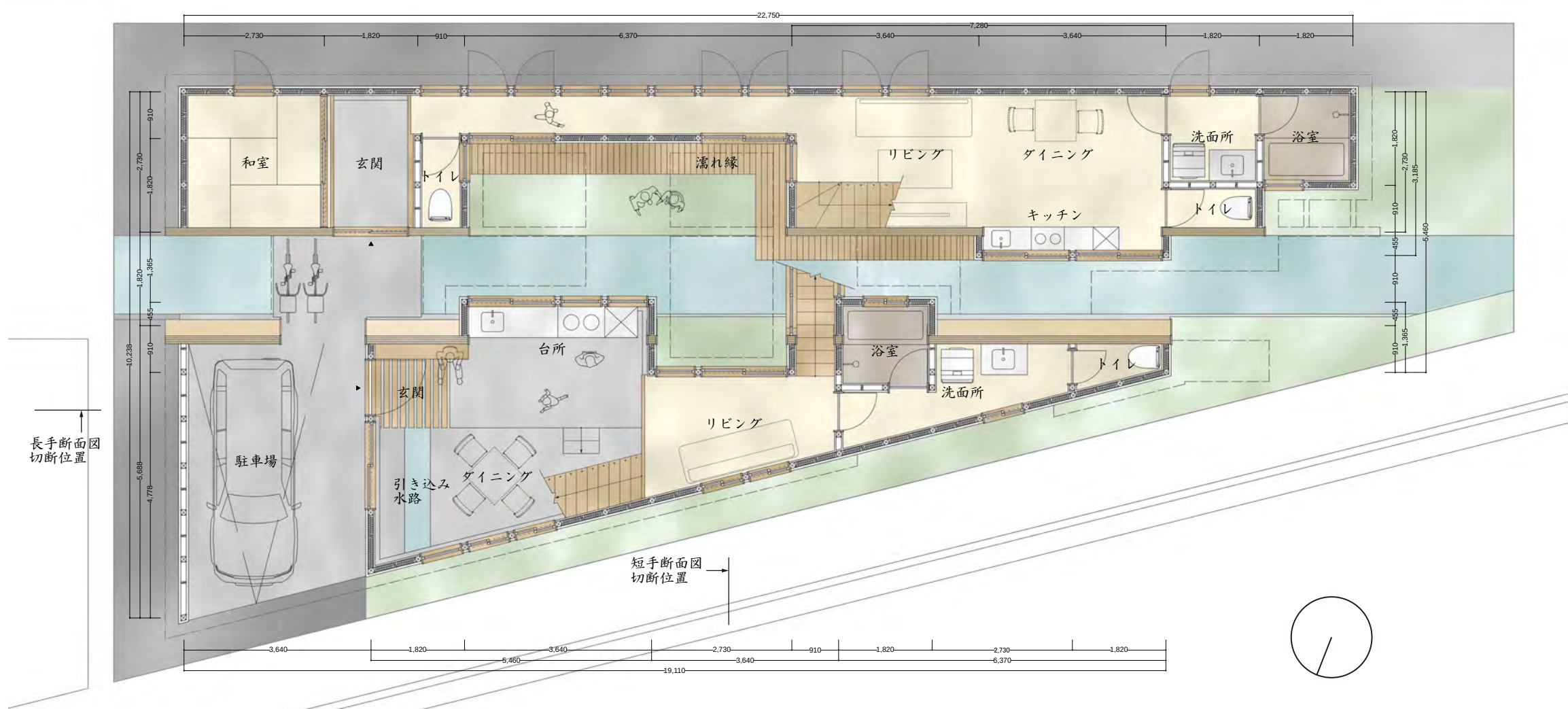


住宅に引き込んだ水路では植物が育つ

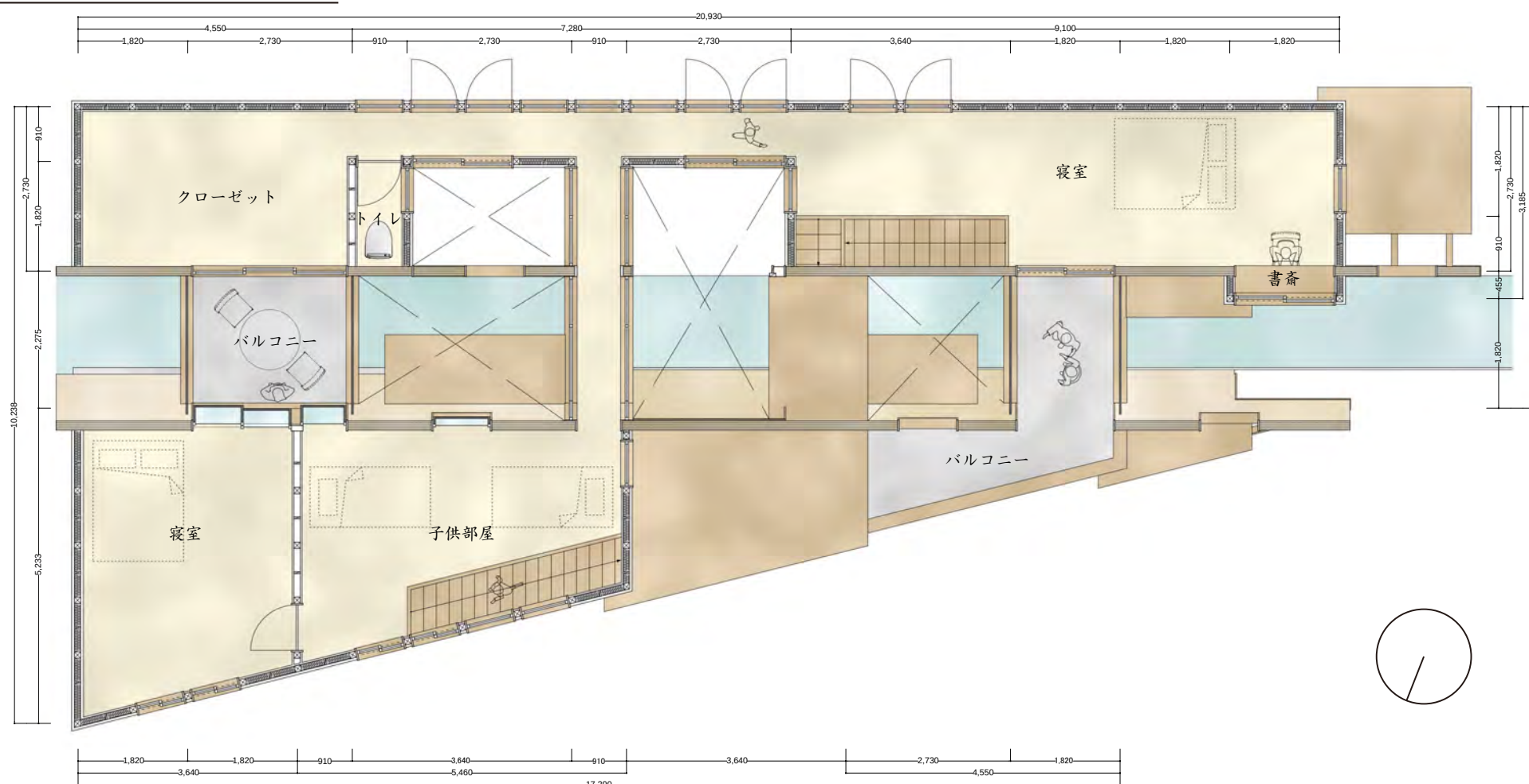
1階平面図 S=1:100

水路を、自然を住宅に呼び込む装置、物理的・心理的境界、冷房・冷蔵効果として活用する。

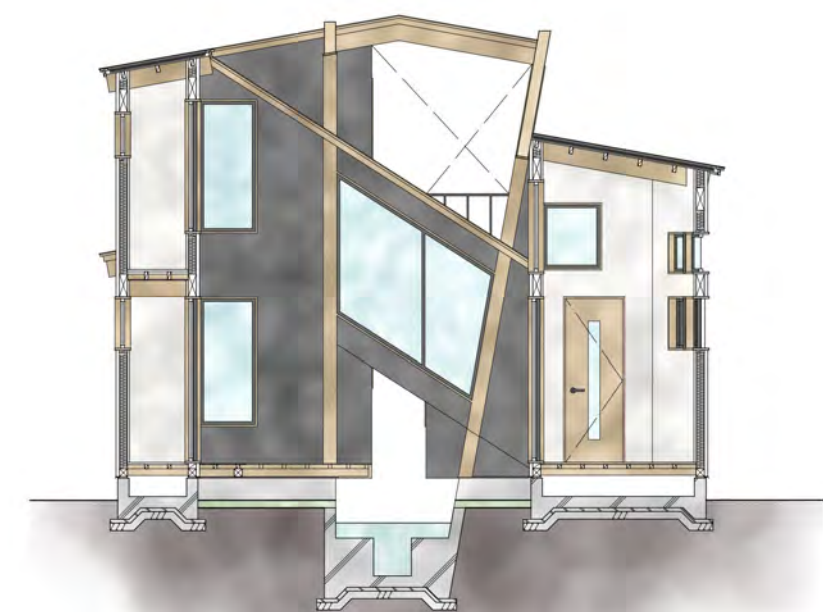
中庭周りをセットバックし、水路周辺の開口部はすべて水廻りとする事で湿気などに対応した。引き込み水路はゲート式とし、建物は基礎の分高くなっているため、水路の増水にも対応できる。



2階平面図 S=1:100



短手断面図 S=1:100



長手断面図 S=1:100

